

友
の
歌

脚
本

A
P
C
H
E

友
達
に
引
け
目
を
感
じ
て
た
洋
一
が
対
等
に
な
れ
た

話

	皆川 洋一（19）	…	バンドのベースで作
		詞作曲	
	長谷部 宏海（21）	…	バンドのボーカルと
		ギター	
	ライブの客	…	ライブを見に来てい
		た客	
	長谷部の父親（52）	…	長谷部宏海の父親
	長谷部の母親（48）	…	長谷部宏海の母親
	バンドマン A（24）	…	楽屋にいたバンドマ
		ン	
	バンドマン B（28）	…	楽屋にいたバンドマ
		ン	

○ライブハウスのステージ

ステージでベースを弾く皆川洋一（19）とボーカルをしながらギターを弾く長谷部宏海（21）。あまり盛り上がっていない客。

○ライブハウス、外

落ち込んだ顔でベースケースを背負い入り口近くで座る皆川。ギターケースを背負い一緒に座る長谷部。

皆川「ごめん俺のせいだ。俺がもっといい曲つくれたら良かったのに」

笑う長谷部。

長谷部「馬鹿、気にするなよ」

長谷部を見つめる皆川。

皆川「お前はすごい才能があるのに、俺が足引っ張ってるせいで……」

皆川の肩を叩く長谷部。

長谷部「だから気にするなよ。俺はお前とやりたいんだよ」

皆川「でも！」

笑う長谷部。

長谷部「はいはい、切り替えて！ 次、期待してるからな！」

うつむく皆川

○アパート、皆川の部屋（夜）

五線譜に音符を書き込むがくしゃくしゃに丸めて捨ててしまう皆川。

新しく書き込もうとするが書けずに手が震える皆川。

皆川「くそ！」

頭を抱えしばらくうずくまる皆川。

顔をあげパソコンをいじくりだす皆川。

一瞬、キーボードを打つ手が止まって考え込むがまた手を動かす皆川。

○貸しスタジオ、中

スタジオに入ってくる皆川。

ギターをいじっているが皆川に気づく

長谷部。

長谷部「よう！ 新曲出来たか？」

バックから譜面を出して渡す皆川。

皆川「ああ、今度は自信があるよ」

譜面を見る長谷部。

長谷部「そりや楽しみだな」

譜面を見ていると顔がどんどん陰しく

なる長谷部。

長谷部「おい……」

おじけづく皆川。

皆川「ど、どうしたんだよ」

怒る長谷部。

長谷部「これ！ お前が書いたんじゃないだ

ろ！」

おびえる皆川。

皆川「いや、ほ、本当に俺が書いたんだよ！

疑うのか！」

長谷部「俺をバカにしてるのか！　これくらい解るに決まってるだろ！」

皆川「いや、ほんとに……」

一歩つめよる長谷部。

長谷部「何でこんなことした？」

皆川「あの、その……」

長谷部「何でこんなことしたつつつてんだよ！」

うつむく皆川。

皆川「だって……だって！　俺、お前に成功して貰いたいんだもん！　お前才能あるからきつといい曲がつけばデビュー出来ると思って！　だから人づてに頼んで……」

顔を上げる皆川。

皆川の胸倉をつかむ長谷部。

長谷部「お前！　ふざけてんのかー！」

皆川「何だよ！　俺はお前のことを思ってやってんだよ！　悪いか！」

胸倉を持ち上げる長谷部。

長谷部「ああ、解ったよ！ お前は俺のこと

何にも理解してないってな！」

胸倉を離し後を向く長谷部。

長谷部「もう解散だ！」

息を切らせながら座り込む皆川。立ち

去る長谷部。

皆川「何だよ……何なんだよー！」

○アパート、皆川の部屋（夜）

机に向かってうずくまる皆川。

机を拳で何回か叩く皆川。

しばらくうずくまったあとスマートフォン

オンと取り出し、メッセージを入れて

は消す皆川。

スマートフォンを操作していると長谷部からの着信があり迷いながらも取る

皆川。

皆川「もしもし。あの……俺……」

長谷部の父親「君が皆川君かい？」

眉をひそめる皆川。

皆川「だ、誰ですか？」

長谷部の父親「宏海が大変なんだ！　すぐに来てくれ！」

○病院、個室（夜）

包帯を巻かれベッドで眠っている長谷

部。見守る長谷部の母（４８）向き合

う皆川と長谷部の父（５２）

長谷部の父「バイクで暴走して事故を起こしたらしい。もう目覚めないかもしれないって」

皆川「いったいなんで！」

日記帳を手渡す長谷部の父。

長谷部の父「最後に君と喧嘩したことが書かれてる。多分それで自暴自棄になったんだろう」

日記帳を読む皆川。

長谷部の父「最初は君のせいかと思って複雑
だったが、他の日付を読んで気が変わった。
君に読んでもらいたいから持って帰って
くれ」

皆川が顔を上げる。

皆川「でも……」

長谷部の父「君に持って行って貰いたいんだ」

皆川「はい……」

○アパート、皆川の部屋（夜）

机で日記帳を読む皆川。

長谷部 N 「十月十三日、皆川と喧嘩をした。

理解し合っていると思ってた。思い上がり
だった。くやしい。どうにかなりそうだ」

何ページもさかのぼると何か挟まって
いることに気付く皆川。

ピックが挟まっていたので手に取り挟
まっていたページを見る皆川。

長谷部 N 「四月四日、オーディションにピッ

クを忘れた。誰も貸してくれない。当然だ。
みんな敵同士、でもアイツは貸してくれた」

○（回想）ライブハウス、控室

バンドマンA（24）に手を合わせて
お願いする長谷部。

長谷部「お願いピックを貸して！」

そっぽをむくバンドマンA。

バンドマンB（28）に手を合わせて

お願いする長谷部。

長谷部「お願い！　ピック貸してください！」

そっぽをむくバンドマンB。

長谷部にピックを差し出す皆川。

皆川「よかったらこれ使う？」

喜ぶ長谷部。

長谷部「本当？　いいの？　俺たち敵同士だ

よ？」

笑う皆川。

皆川「いいよ！」

笑う長谷部。

長谷部「ありがとな！」

○ライブハウス、外

帰ろうとする皆川、後から長谷部が声をかける。

長谷部「残念だったな！」

振り向く皆川。

皆川「あ、そうだね、残念だったね」

笑う長谷部。

長谷部「ピックのお礼におごるよ！」

皆川「え、いいよ、いいよ！」

皆川の肩を叩く長谷部。

長谷部「いいって、いいって」

○ファミレス、中

ウーロン茶を飲む皆川とビールを飲む

長谷部。

長谷部「はぁー！　生き返る」

皆川の方を見る長谷部。

長谷部「君の曲良かったじゃない、何考えた
らああいうの出来るの？」

皆川「素直な気持ちを込めたんだ。誰かとながって、一緒に喜んだり、悲しんだりしたいって」

長谷部「ふーん」

皆川「周りに音楽やってる奴がいなかったから、ずっと一人だったんだ。だから仲間が欲しいっていつも思ってた」

黙り込む長谷部。

皆川「いつか、誰かに届くと思ってたけど、音楽って難しいな！」

長谷部「じゃあ？　俺と組むか？」

皆川「え？」

長谷部「俺、曲作るのが苦手だからさ、作ってくれよ！」

皆川「えー！」

○（もどって）アパート、皆川の部屋（夜）

長谷部 N 「アイツにバンドを組もうと申し込んだ。アイツはずっと一人で仲間が欲しいと言ってた、その気持ちは……俺も分かった。俺もずっと一人だったから」

長谷部 N 「仲間が出来てワクワクしている。これから何が起こるか楽しみだ。ずっと仲良くしていきたい」

大泣きする皆川。しばらく泣いたあと、涙をぬぐって五線譜を取り出し勢いよく書き込む皆川。

○病院、個室

寝たきりの長谷部。スマートフォンを取り出し作った新曲を流す皆川。

皆川 「新曲出来たよ」

涙ぐむ皆川。

皆川 「俺、初心を忘れてたよ……」

大泣きする皆川。

長谷部「うるせーよ……」

驚く皆川。

皆川「長谷部！」

苦しそうにしながらしゃべる長谷部。

長谷部「せっかくの新曲が聞こえねーじゃね

ーか……」

駆け寄る皆川。

皆川「お前、意識が戻ったのか？」

長谷部「うるせーな。曲聞かせろよ……」

泣きながらうなづく皆川。

○ライブハウスのステージ

ステージでベースを弾く皆川とボーカ

ルをしながらギターを弾く長谷部。少

し盛り上がっている客。

○ライブハウス、外

ベースケースを背負い入り口近くで座

る皆川。ギターケースを背負い一緒に座る長谷部。

大きな傷のついた右手を見せる長谷部。

長谷部「あーあ、この怪我が無けりやもうちよつと盛り上がったのにな」

笑顔を浮かべる皆川。

皆川「馬鹿、気にするなっ」

笑顔を浮かべる長谷部。

長谷部「はは、だな」

立ち上がる長谷部。

長谷部「それじゃ、打ち上げどこいくか！」

立ち上がる皆川。

皆川「どこでもいいぜ、お前と一緒にならな」

見つめあう皆川と長谷部。

○エンドロール